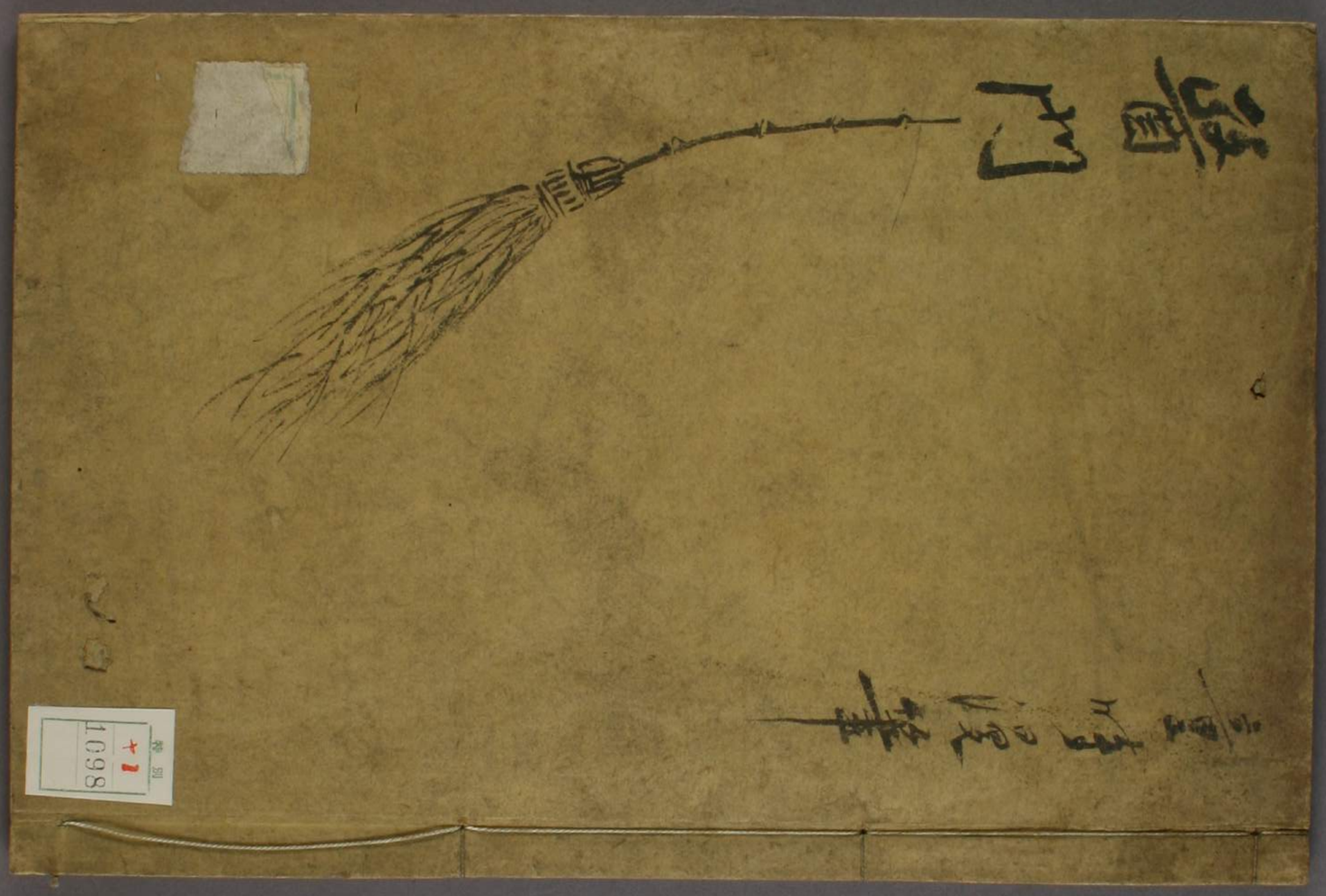

1698

特
門十1
読1098
巻

櫟窓老人題藏

叙
門
巻
叙362
門
巻
醫門
巻

水戸醫官　中江森尚源清卿著

森鴻次郎

凡そ事深遠にして未盈ることなく人情はまことに新しくなづしもとなひものなり故に小人の偽小人の醫は彼天命そなへずして奇説をなす或は奇なる治療をして白俗の耳目を驚し名利を射ることを古今の通病なりあやしき說も國家を安らかにしめあやしき治療も萬民を助けなづちがひべきなるあらば行ぶるを害ありとなすべしなれども誹とはなすんやもとよりなすべきを捨ざれば不侮なるを四舍に人をなりて淺才無學なるをもて病んで苦せざるを

中清と同じく学び放逸なれども不品なるもの一文を
文の仲蹟山人の志賀かゝさきゝて我が上の見へ
ぬ水海こゝろゝ思ひ〳〵かゝ〳〵ぞとゝろこかゝ〳〵
かゝつゝ行て我門の塵埃とたゝゝのやぶれたゝきて
なゝぬゝるとて牧管跡物うて一宮の酒掃ぶる
ゝとぞ仕げまの森れ清ふきろびけ醫門の
ちりとたゝいまゝんてゝ事朝ゝ後ま
ゝゝめゝひまゝ〳〵そやゝ図門君ゝの見生ゝやゝん
井の中ゝまゝるかゝげゝやゝゝん先ゝゝゝ醫学採
乱ゝゝる二まゝの書をかゝ好ゝ著〳〵夏笠の時採ゝ某

ゝ京橋ゝゝ京の人ゝゝゝかゝあゝゝゝゝゝか
ゝゝ丙字の四神ゝ烏有ゝゝゝぬゝゝゝゝあま
ゝゝゝ今國字ゝゝゝの書の大意ゝ摘て一冊ゝゝ
ゝゝゝ思ひゝゝゝゝゝ
醫ゝ清流あゝゝ理ゝ病ゝゝいやゝゝ医ゝゝ古方医
後世清ゝゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ各ゝ流流ゝゝ後世の中ゝ清流ゝゝ予ゝて倫
辯ゝゝれ清ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ方ゝ理ゝゝゝ格が別ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
清の流儀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

桐敵をやんまて諸師家の宗門争ひに似たりかくあらし
うちつのころなぎ却て其始をも瞻てかへりみべからず
長袖の出家する他宗をそしり我は兄弟くるしき況んや
文士のてらさあしくして小さな物あらそひするが
如きなりしけれ手かえるる医生さへも然りに古方宗と罵
しりて周之冕不可冠殷之輅不可乗なといふてとうとく
うずを大言をそしき門人なる此僻見をなてあし中古
行り家の偏僻なるを日本古代より画人と称する狩野家
の唐画と一をはまるをあ似たり此人代々世々いとある
後世家なとは永く祖志をついでちりかしめぶるくそ

称するにはかりその国執のちからずはさいへりしやらんき
ろんこととすれども我は家傳の方術をもて治療するに
あり世の諸師よ譲ることをしらず前ぞれてうけがひ
がたんずるものし識は世をさしきん今より見れば元明
もすこぶるや上古より見れば秦漢も後世なり又古方家
は猛薬を用ひ後世家は寛剤を用ゆ中古の世の医ふは似が言
り病邪を除深厚なりあり病家老若剛柔にて薬をも症
に従ひて寛猛剛柔をおかれば病邪は攻退けがたし凡て
世諸の諸處大夫の病を療するを見るに古方家と称する者の
薬も多は寛和の剤を用ゆる事あり貴人は性質多は柔

弱きものなるゆへなり是を守るの人ハ死をまち待
治をねがはざる人ハ醫師もいらず寧不利於病不拂
富家心とはいふ場と云ねかはれざる事なくなげかはしき
事なりしかれども一方にかたよりたる人ハ誤る事を
心得べしつゝしむべし又古方家ハ単味の薬剤と
用ひ後世家ハ多味の薬剤を用ひても妄説なり
其病と人によりて一方にかぎらず多味も単味も大
剤も小剤も用ゆべしなしがたき事なりかたよるのみ
醫門の衆人なり此言詳に説人を欲すれバ片語半楷
の書すくなからず古方後世の医も各書を著述して

我佛尊ても倭のうその言書し糟粕の陳腐せるもの
にして其名を噺す小人なりとかくのぐず故に一儒者の
此書籍を古人著す書せり今書を作りて名利をもとめ
ありとて著書と好むものも理あり又一儒者の書ハ著
しつくすとしるべし世に書籍多くなるをもとがりて
先王の道文武の教きわめし聞るとしるべし理なしんバあ
らじそれハしられかれ我救民の業ハ又儒を印
かる学問の道異なり中が口授面命と得て味すべき
ざれバ其甘露なる事と知るべからず
阿諛の悪風近世ますます流行せり良醫雨のたゞし君

この頃もてはやす世の行文書画の孔子として公卿
大夫諸侯と交りを結ぶ山醫者とそしる人あれ
どもそは一概にそしりぐさあらず多くは
かなる花鳥向のよき（タイコモチ）幇間賣俳諧の輩もまたそれ
同じ方法なるべしさて宮ゐ殿ばみ
みくみそんぐかぶ行文風雅が好きやと名人な
せる治療ばかりを自慢日雪花と誇りいとまなき
行文を画をかすことはぶるものあり真の幇間と
いふべき三絃芸と学んで百重の宮と称者出入し
宮内の者の機嫌をとり利をとるかり

ちらとたぐひなく名をとりてが大論持愛俗の随にて
一名とはきげん坊をとる極す世間を多し別て解
女の地にあり方もでも是を表にあらしてこの大論持
なれど人をそそり其方をはり川病気俗の軽病とのこ
かけ通知てそ者の器量にしまして名付て病気医者
をはり川（醫而者）をもて異者とてそくてやぶ医者とそ
を庸醫の轉語なり此きまのてき草醫ハ辻君と
ぐの愛女のごく果て癒毒の愛をうと人をうまく
人をかくしかくしば布と男ものあり然とても切見
世の遊女を醜くきのしなきごく右のやぶ医者の中に

上手もあるものなりさてこゝにおそるべきハ薬佐とかぶり形とつくろふて人をたぶらかす医なり名を東都なるハ何がし紋医者ちりめん医者なとゝいふ轎にのりてありくを轎医者といふ侍僕蒼頭を召連てありくものを一僕なきをハ一僕医者二僕なるハ二僕医者などゝ名付く諸人も巧言令色と美衣移服とにまよひてこれ一命をあやまるをみわきまへず世の愚なるあいしんた是のごとく人をたぶらかすを恥とも思ハぬ其心深しかくのごときの医者のつゝしむべきハ阿諛の一なり病家のおそるべきハ売僧医者なり

吾家の弊多き事ハ医のよかゞらず予已に文を著し別に評し論じたり別て医と業とする人の学問せざるを手柄とし人を殺すの大害あり儒とかりて業を飾るも君子の医のふるまひにあらぬなり更に吾家なるを論ずるに足らざるも吾家の恥しきは天明元年辛丑の秋水戸城南大場村の内別所といふ所に忠七なる農夫あり其小児疫痢を病り隣邑大串村の御医笠倉元丈といふ者に見せけるに又下石崎村の海老沢昌林なる者来りて此元丈が治療あしきゆへにくるしむとて先医の療法をあしざまにいひて我功をとるハ俗医の習ひなれどもまさに物に迷ひやすきハ小人の情なる

りて字内の者も先醫の治療をうらみなるを元丈
も昌林が過言といりてぞ醫論をあぐり昌林八千程
をうひそれをうひ元丈も弱るをひ蘇張が辯舌と倘
くるべ〜ども昌林一言のもとに閉て三舎をさけり
昌林利発者にて元丈がをそれをふれりして文章も
筆戦すぐれたり元丈もまた意気豪邁なる強き
漢也〜サしも負じとそしじと学問をして昌林八千頃水
戸第一の学問と称せらるる長久住隆軒を頼て文章
を書てもらひ一舉にして彼元丈を勝たり元丈八千帥に就て
久年と書てもらひけるぞ千帥の学力をかへ隆軒を

かへりてもく十ふの力をもつて大に負をとりたりき
事なるべしや忠七ゆゑ昌林が治療のうるべ
俗間の常にもうこかんあきをもよそれてるる
まじるひ形持るもとつくすとつくすす効るもて
死せり此事〻拙著の博雅堂漫録の中に詳ぜり記
して知学の戒とるせり江戸本御番本街の書肆越中
屋文次郎なるもの病りたる左の乳にもるぞ〜き部位
ありこれを多の醫者にもせけどバ皆八病名補薬と
彼ひべ〜成八汁灸すぐ〜るでいるもの〜をもそ八名ぞ
悪症ありとつる医生もあるとぞ文次郎常にこれをう

といひきたる一日語次此ことをのべりしが予が云く是まことに病に
あらず素問にいはゆる虚里の脈とて胃の大絡一身の
宗気にして此部も大きなる人あり人によりて甚しくあるもあり
うごくもあり又これなきもありあるもあり又これて小なるもあり大なる
もあり文次郎大に驚き甚だ嘆ずる事かぎりなし謝していはく
先生の明教によりて雲霧を披て青天を観るがごとく
始めて安心仕候なりとて此のごとき類は書籍を読
ままねば学問の論もしかるべき世の外科の恥辱なる
人命を侮ることなかるべしかたく慎べし謹よいふべし
庸医の人殺しといふべし　此頃大田才佐の語りしは

日本橋に我がちかきに医者あり此間難経の会を始めしに
町医の集まりしもの二十人餘なりしが中に難経を越人の
作といふことをしらざる医者は四人ありてはなはだしきは
あまりと丸くして八丈の如き見ちりめんの羽織と
き目薬様のまがひの小腸桔と出だし平田にまかして
きくあまりにも苦ぐ人は知る医者ぞやとおもふぐさに何に
もかんや其文旨の医者の性かぎりなく多かりしを
名ある才佐も捧腹たえしぬ此輩の生まで医者は常
に不思議とおもふもしまさるとおひ人をも用ひると医者の極
者とてかくし手をも大きにすみもやまさなるもののるに

思ひくれと貪るゆゑに醫と富貴をみくるるの
うて医体俗心の者より業の朱とうぐふ一箇の
遊民いるよ世界が産けとバとて世間のいるも
みれを連るる医業と止あさせて必ずべき職分と命
じるるもあの〳〵そもそも得るるん
さて又癖学を学ひとき病あり近世儒者も
医者も学風あ〳〵ありうるが添と先り学は世の
風作りて君子の儒君子の醫とて八一生世上生涯も
なるべきと〳〵世上生るる成八くすし成八あるる
小人の儒小人の醫のぐく中かうちるて為と成〳〵高

名あるもとと成ず学の世をいくど生をいける
かぐらハなばかるきてるる〳〵め侍も医サ〳〵之と
ゆもとや見識ぶりて大言とき已より器大なりて邪
魔なる者とバいるを罵るる遠ざけて交らず天下一
人のぐ〳〵思ひすま〳〵成を例安る奴女と称て遊ぶり
車地八男色をこのみ華他八おどりと踊りり思愈八一夜
ゆ十女と御すをとといるなぐ英雄る者八放縱不羈
るるものるる士人の不行跡と引て俗るるる多あり
奏学とまるぐ生埋るるぐ異学者あり又るるる
引の〳〵男女六十るて猶席と同ゆせず男女親〳〵

接ける学ぶを礼とされたるぞ引ふるる時所位と
しなれば多くは又近頃は好事と学者ありて
書画琴曲と学び古物とあれば風流惜敗と流
るものなるべくの金銀を散じ費は博奕酒色
と異なるべし上品のごとくしてるるべし天下の大
中なる此の如き人なるべくして出ることけもたぐ
一遍入りて甚だ驚と生ぜり心なる人
も此を風と手を人予は本より代と官爵なれば儒者
の言は我伝るべず此ごとは海屋氏まぐるその風
を化せしむる人と為ぬ事は主て経と説

古の名僧知識なるものなり書と作る人の非と討
ることを専とし名と買ひ利と貪り世をさとさず
して世とくるなり されは古の学者の学
問のあるなるべし 摩訶とるなる生涯書
とるべし 文と著のしるして丹るるを大なる
あやまりなり 幼けなるを文と学び性を文と作る
しるべし幼少の時を しるべし骨と折りて書とかるべし
付文は学問の階梯なるべし学ぶを此より力と順路なる
付文とせずれば 讀書も解せざるなり 付文を
のしかり果りと費を 付人文人のあるを益なき

紙鳶をかりて車法を以て身上つまりてハ愚痴なる
のみならず　その術を行ふべきあて　する学文の術と
すて　学ばずして一生を果すを本意とあり
学ハ術をもて上ものなれば術なきに学を空理空
言なり　習ふとばかりて施し行なわば行事も面白
きものなり　醫ハ意をもて一文不通にても忘れく
ぬんで病と見ふ所ハ神妙不思議とも云ふべき
為ものが学ばずして成就する道理なり　学
ばずなるべき理なるべ　学ばずして学び
て上達せんとあるは天下の廣ハ

学問もあり　産医もあるべけれ　彼ハ学ばずや
ときい　学べるべ　彼ハ産ばかりなるべ
各志ありてみるべ　車をかぐ　何と学
術を行ふとおもへ　江戸学を学ばとあり
此を四人ハ学問も　書籍を　見
生徒の嗚呼ハ場所を　行ふ
ものなれ　人の心掛く　四方を学問
かるべ　それ京を王都　古今大才の人生
なり江戸を天下　産業の地　日本第一の繁華
の人多し　京をつぐ世業の場所　出て学

も志願し志篤く志ざす大よ見聞とひろめ人情く
自下至ることを学ぶかぶ学問と上る医生
や侍せ等或ハ多くと女郎よのぼりあり手ぶを平生ふる
稽古の者今かりて志ところ学ばしかさず稽古よりも
ひろと行つかゆるれども それが却て その人のあるところて
ちらこもつまなら掃の徒と故ひくかぶもあり五く
らやこて大ふるあり故郷へ帰りて稽と上るあり
まぐて若き時苦としまあ〳〵きハれかり今ふて名聞と
ふやて ちるものして かつの徒ハ俗ぶることぶさて
修行の中師の家ぶ入て千辛万苦ふこと知なかるべし

多くあるかて人ふ書ふ書ふもある者が学問ふ成ることれ
までのふ一年ふ郷ふ遠ふ有ふ人十金位の
ものふ中ふ茅耕ふ侍者ふ学ぶ出ばつかれあるものふ
ふ家ゆふ出ふあるふ学ふ代診ふ行ばかるぶ
羽織袴ふ乗ふれぶ学ぶあるものふ醫官のふ
諸侯ふ召て修行金出れる町醫や郷医のふハふ事も
なし ふれぶ官禄ふものハ身軽ふく右ふ居ふ
侍ふぶまなふ中ふ又勝ふ学ふ事も多し 二三年
の学ふ夫の如ふ故郷へ帰ふ開ふ
ふ尾ふふ ふ中ふ京読江戸ふ学ふ

その四隣（イナカウド）人を琴かすの侍ふ一人ばかりの事なり
あり。なん秘書でも学ばしめ書籍をもちゐ
なれし。実よりそこらに
ある人八十人より一二人多くでいろ
ゝ師匠ところ〳〵にあれ正しき人を又師匠のもとにおこと
一騎あの男ゝ多くいづくより父母に知人若党
とかけまゐり嘆ずきゝ学ずや進学のゆ
又外よりけとりかゝ才学ゝ学ばこ
妨ゝ学ばしてまゝ学ばしゝ学ぶもの
ゝ世ゝ心傳心の術あれゝ正ゝ
ゝ信ゝ才智

と用ひ安穏なべいかゝ忠孝の二字ゝ
生ゝ成就するのゝ人を進学の中
ゝ都の住ゝのあきゝ住ゝ
の地ゝいかゝひがゝのゝ
ゝひゝあきゝのゝ伊尹が湯ゝ庖厨ゝ
ゝいゝゝ書も信用
ゝゝ学術ゝ
て用ひゝ八人ゝ学術ゝ
ゝ学ばゝ君ゝ
ゝ修業ゝ人ゝ
感ずゝの規模ゝ八面ゝ移ゝ論弁

も人を逆すまじきこれなんぞ人を逆するとも
事なんや人を逆しても要用と称し人くんばるべからず
世をとりてをうとんて罪するもの也
近世の儒ハもっぱら長袖者をして文那まそらする
醫業僧の類多くは世間後花園帝の時宇
永享の頃より既に有りしかは和学者その昔乱世の時
罪ある者ハ戦と事もて人を殺せり祝宜山伏或ハ僧
侶或ハ俗人の隠れなど之をなすもの其内之者ハ狂
更世上の者なる醫をもて怨髪や剃髪せれば自ら人の
用をなさるとなる人ハ文盲なるものを形さへ醫者

なれば医者なると称し一月まで歩すと称ず世の皆ハ
之を信じるなるべし　言葉の業ハ形早賤の者と別
さるとして道を法師法橋ばかりを僧官を任ずるなり
なる如一説ハそのかを前の月代なるものをして軍中
かなどと冠する僧ぜし時醫者僧者の名ハ甲なる
もるけれども右の月代なるめるを陽と
なるり僧者書を略かるるべ聖人の行僧を違さず
とんてもなる和風を改めるり醫者の中なる典薬頭
なる人なる武家のなるなりて僧侶と歩あるるり
長袖者ハ堂上公家の風なるべるもあるなる

十徒ゑ[illegible]て法師くさき衣袋ときまとこんかり
けれ周禮ゑ医ハ官名なるバ医者ゑ[illegible]平人ゑ異ゑ
形とすべきいとゑ[illegible]又成ゑ人の後ゑ聖人の政ハ
人情ゑ逆ゑ[illegible]とて[illegible]ゑのんハ毎ゑ仰る者ゑハ
ゑ[illegible]人ゑ好ハ別ゑ[illegible]ゑのれバ裸とハせ[illegible]官ゑ
世ゑ[illegible]ゑ[illegible]人の髪ゑ[illegible]て[illegible]
周の代ゑ醫と官名ゑ[illegible]ゑ[illegible]成ゑ人
ゑと伴して云く此言ハ[illegible]ゑれども古今世然
同じかず醫のでき者ハ世ゑ[illegible]ゑ学も術も
[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ醫者の

僧侶ゑ一流ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ言ゑ曰く妙青院出家ゑ
ゑ儒者ゑ成れバ公家ゑ成ゑ武家ゑ成ゑ[illegible]ゑ
ゑ[illegible]て武家の入道の如ゑ[illegible]ゑ儒者の髪
と剃ゑ事ハ[illegible]ゑ醫者の髪と剃ゑ[illegible]古道三
なゑ二三人也家ゑ立ゑ改業して醫者ゑ[illegible]
始ゑ髪ゑ[illegible]ゑ上京ゑ出ずに[illegible]ゑ
ゑと知ゑ人ゑ髪ゑ帝位ゑ[illegible]社祢ゑ[illegible]
かゑ[illegible]ゑ是確論ゑ近年儒者ゑ野郎もあり剃髪
もゑて大ゑ聖人の意ハ中の風ゑ叶り平ゑ過と改ハ
醫者ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ正ゑ後ゑ黄岐氏や大畫ヶ彦二

氏の志にたかはんと欲すれども中々もって十徳などきて
風雅なると好むの癖なり泉石の膏肓煙霞の痼疾愈
しがたし辛よくハ勉強でありけれど医者のまねかもす江戸なとハ
學問とよしなし儒者のように髪をかぶりや不の風といふハ
なかしきものなり近年ハ世間に野郎頭の儒者多くなり
これ飛鳥川淵瀬定めなきは浮世なりしめしもかく浴女にて
人ハ其すがたも形ハかわらずとなるものなり秀吉ハ猿に
似たり張良ハ女の如くなりしかども人の頭細なる事にかまを
奏でなきものなりや中が門人の野郎も惣髪も坊主も髪
かくまでもかはらぬもの

儒籍を正経に立し ゆへ上古より儒籍の根本なる素問と
難經の外なし此二書も後人の攙入ありて媸妍丸まず霊枢の
如きは専ら鍼灸家の事を説て湯液家に用となきこと
あまたあり 上古の正経傳書ゆへありて残篇錯簡ありといへども
六経のごとく厳然たるものなれバ儒書の補力をもまたらすのなり
古今なきなる医書なれど文章の面白ハまれなるものなり元来医
書ハ療病薬餌の事のみを記したるものゆへ面白からず
學問がくし楽しく書を読みて抑末なり其儒書
の説を取るなる術も人情によって論辨に負けしを
却て牽強附會の説も蜂起して却て治療の害

とせる事なり徴すべき正経を立しがたく古今
の是非分明ならざれバ青嚢蘭学ハ萬事に似て新し
その上蘭書ハ治療に多くわたらず天文地理陰陽五
行の説図とも往々ありといへども陰陽司天在泉の
説も大に用に遠りものにて廃すべきにあらねど
いふやう益精して是遺りものならん 術を書されり
事実をもって講談すべきなり然れバ益なき精
神気力を費やさざる事なり 席上の小術ハ明者の
明らとりべからず 術といふもの八言外の理取りなりして
たとへバ瘡と疫との別を明朝なりて朝さえするが瘡

なり細にしるさ動脈なれしも其疫なり たとへバこれを
瘡に持ちハ中にありあらず功を積バ自得すべし
筆舌以て傳へがたし又すひ取るべきて膿ぬと出血すれバ
よく吸ねや又職とするも膿血の流を出すをさするもの
なくべとかくするも血ハ出ずして却て衛気ゆりして大に害と
なすもの多り此等のものハ吸とるべバ浮血の器をもちゆる一丙
ならでも人を従によるべし用ゆべし 凡て医学の為
しよりハ朱丹渓が四法を立て柱礎をしるす 鍼灸も要
究めしと云て煩雑ならず薬方も数種にすぎずして
其加減使方の変化妙用とも云がたし それよりして

あらずして和漢古今の方法と可ならざるなく刀技術法
のかたちの格と作るが如し群書の中に就て根據して可及
うこれを医学の大要とす王節斎が言に仲景東垣河間丹
溪四子に読病学庸語孟各啓蒙義一以貫之といふを嚆矢
の模範として千載の亀鑑なり初学の輩此一言を守り
て後に医書に進むべし学の道何の
疑ひかこれあらん医者の本末おのづから明らかなるべ
し作ることなかれ農業と事とする者は
鍬鎌と造ることなかれ鍬鎌と製する者は耕耨とせず
古人も匠は斧を執せず事多ければ則煩しかるが故なり

法度を欲とはいまだ本末を分かず
ゆゑにてもらかんずるまでなり人を一義にて教ふと
なり父母妻子さへ教ふるにはあらず足るべき上に第礼を求む
る食べきを定めるを世にかぶるかぶるかぶるを欲と
いまだ知らざるなり何事も法の礼と考へて
物と性とはいまだ分かず大学の道
大学は
世俗はなるべきものあるべし学問のしかたは彼の
男は学問なりしかれども何よりなる問やとのこと
にひ又餐のものとして書と使まざるべし彼男は学問の

しかるに人といふ事まづをさむるとてあやまりあらばそれ
かげにてはいかなる人のことをもそしるは世の常王公貴人すら
下々の雑言ハまぬかれもえずせんすべきやうもなけれバ
一図に人を恨む徒も志節我にあり毀誉ハ人に任せ
世上のことはあまりにくよくよかまはずおほらかにあらで
細工を流し仕上と見るを上るごとく心廣大寛裕なるべし
おのづからわれ者にゆるやかなることハ格なり初学の者此の
むかし志とバ言高し　言行とバ卑遜にて勝負をせず
他なる学術習はず修しいへども同志千人
同くるは千人の世の常なれバ学識も学も並び

行ふときハ身に付学問なれバ万事に付てましつか
ゆたかなる身ハ人の上なる者にて世人の信用もあつく
民をすくふにも何ぞ良相と功ハ同しくするといふ薬ち
かひ見るに遠くせざるハ天の冥加に叶ふべし常に
あるべきことをあつくおもへバ急病に携へ行てよくとらす
尓とかつて苛証苛なるべし　それを平生よく心掛て手が
済の学問なり　才鋒とあらたむ舌剣を鞘にをさむる
いつでも慈悲のあらたむ力と在すべきなるべし
今是此一生をまもる本とする事　此学の者人の常
人を主とするも人をたて主とする人を骨たらしむ

従遁すべからず其の病者にあたりてちがはずして
なる事なるを經驗せずたやすくいふべからず
わる着ることそ手わけよき利も出て物事も却て
ちがふ類ふべし　醫者のかゝはらば我病語りとやめて
牛は牛づれ同職如敵の悪風とあらはるゝ入ては書を讀
じ出ては道を從じなど師匠の異なるもかまはず天地
まことなりて和らかなる事なり　急症卒死にかぎ
らず絶たるを蘇し生を回しむることも中々容易の
事にあらずよくよく和らかなりたるべし　何ぞ診ふならんや
何ぞ論ずるならんや病家もまた醫を信じてよろしく

轉醫するとも仁慈なき人にかゝるべからず　貪醫なる行跡
なるものなれば病人の方よりも食事をよくかなふべき又
撰せず人参などのやうな高價の藥を用ゆべし　然しも
人を助くることを勤むといへども日頃心を用て骨折ぬ若しまさる人
もしも万一の時に危ぶみ醫者とかゝるべからず　命數は
天にありといへども其すくひぎれしものとなるは藥の
力ならず其藥ありとも助からざるは天なり命なり従然
常に交るべきは醫者といへども病家たるものもよくよく
知りて叶ふべからず　彼業事ふは又異なり
素ちなる醫者と志すべきならば為べからず良相と功を同する

ほどの百工の長たる此道なられば法例倦怠なくして一日之
ばかり少成近年諸風者とかりそめ歩もとゝまらず此一
者と著し世のわゆるを天下の庶民なくして天下の正位之
ち天下の大道と行ひ者て行ひ民と云ふより者をはなれバ狂
乃と行ふ者を遠ざる能ず貪賤の移すをあくまず威武と
屈すること能ずもし一たん成功ハ天ちう如何がせんや彊
ゆゝ者と為んのみ

醫門帯　終